

発議案第 5 号

ヒアリングフレイルを踏まえた補聴器購入費助成制度と支援体制の構築
を求める決議について

上記の発議案を別紙のとおり会議規則第 1 4 条第 1 項の規定により提出しま
す。

令和 7 年 6 月 2 5 日

八千代市議会議長 末 永 隆 様

提出者	八千代市議会議員	立	川	清	英
賛成者	八千代市議会議員	石	山	泰	之
	同	高	橋	秀	行
	同	森		妙	子
	同	成	田	忠	志
	同	林		隆	文
	同	小	澤	宏	司
	同	澤	田	新	一
	同	崎	村	知	生
	同	嵐		芳	隆
	同	大	塚	裕	介
	同	辰	己	百	恵
	同	塚	本	路	明
	同	萩	原	麻由	美
	同	山	口		勇

同	飛知和	真理子
同	堀口	明子
同	伊原	忠
同	飯川	英樹
同	高山	敏朗
同	大竹	秀樹
同	菅野	文男
同	三田	登

提案理由

ヒアリングフレイルを踏まえた補聴器購入費助成制度と支援体制の構築を強く求める。

これが、本案を提出する理由である。

ヒアリングフレイルを踏まえた補聴器購入費助成制度と支援体制 の構築を求める決議

本市においても高齢化が急速に進展する中、加齢に伴う身体機能の低下、特に加齢性難聴は、生活の質（ＱＯＬ）を著しく損なう要因の一つとして注目されている。

中でも、「ヒアリングフレイル（聴覚機能の低下に起因する社会的孤立や認知機能の低下の連鎖）」という新たな健康課題が、近年、医学・福祉分野において広く認識されつつあり、これにどう対応するかは、地域の介護予防政策や包括ケア体制の充実にも直結する重要な課題である。

聴力の低下を放置すると、周囲との会話が減少し、ひきこもりやうつ症状、さらには認知症の進行につながるなど、科学的に示されたリスクが存在する。これは、いわゆる「社会的フレイル」の引き金ともなり、聴覚機能の支援は、単なる個人の問題にとどまらず、地域全体の健康づくりにも深く関わるものである。

こうした背景を踏まえ、補聴器の導入は重要な対応策となるが、飽くまで医師による専門的診断・助言を前提とした適切な装用と、装用後の継続的な支援（聴覚リハビリテーションなど）を含めた包括的な支援体制が不可欠である。

補聴器の購入費用のみを対象とする施策では、ヒアリングフレイルの本質的な予防や対応には不十分であり、医療・福祉・地域が一体となった支援が求められる。

なお、現行の医療制度では、加齢性難聴に対する補聴器の購入は保険適用外であり、必要性を感じながらも経済的理由により装用をためらう高齢者が少なくないのが実情である。

本決議は、補聴器の購入補助を単独で訴える立場とは異なり、医師の診断に基づく必要性の確認を前提に、経済的支援と同時に、装用後のアフターケアや地域の相談体制といった支援も含め、「ヒアリングフレイルの連鎖を断ち切る」ために求められる、総合的な取組の必要性を訴えるものである。

よって、本市において、上記の現状を踏まえ、下記の事項を実施するよう強く求めるものである。

記

- 1 加齢性難聴者の社会的孤立や認知症リスクを低減するための予防的施策として、医師の診断を前提とした補聴器購入費用への公的助成制度を早急に創設すること。
- 2 補聴器装用後の使用状況の確認や聴覚リハビリテーションなど、専門職による継続的支援体制（アフターケア）を制度的に整備すること。
- 3 耳鼻咽喉科医、言語聴覚士等と連携した「聞こえのチェック」等の相談体制の構築と強化を支援すること。

以上、決議する。

令和7年7月4日

八千代市議会